

世界の一人当たりの繊維消費量（2004年～2008年）

国連食糧農業機関（FAO）経済社会局貿易市場部および国際綿花諮問委員会（ICAC）が共同で行った世界の繊維消費調査の結果が発表された。これによると、2008年の世界の一人当たりの繊維消費は10.4^{キログラム}で、1950年の約3.7^{キログラム}からここ数十年で着実に増加していることがわかった。当調査は従来FAOが単独で行っていた調査を引き継いだもので、今回で3度目の共同調査となる。調査対象は2000年から2008年の各国の綿、羊毛、亜麻、セルロース繊維、合成繊維の消費である。カバー率は、世界の最終消費で96%、ミル消費で98%である。

1. 景気低迷の影響を受ける繊維消費

繊維の最終製品は主に衣料、ホームテキスタイル、産業テキスタイルの3分野に分類できる。これら最終製品は、必需品、贅沢品、耐久財のいずれであるかによって、収入や価格の変化により受ける影響レベルは異なるものの、いずれにせよ世界の繊維消費量は世界経済の影響を受けている。

2000年から2007年の世界のGDP年平均成長率は4.2%で、同期間の世界の一人当たりの繊維消費は8.3^{キログラム}から11.1^{キログラム}へと35%近く増加した。しかしながら、2008年は先進国を襲った経済不振の影響により、世界のGDP成長は3%と減速し、世界の一人当たりの繊維消費もまた10.4^{キログラム}と前年比6.4%減少した。

また、2008年の統計から注目すべき点は2点あり、まず1点目は、途上国と比較して先進国における繊維消費の減少傾向が顕著である点である。先進国の繊維消費は前年比8%を上回る減少となったが、途上国では5%以内の減少にとどまった。エクアドル、インドネシア、パラグアイ、パキスタン、ベトナムなど途上国の中には、2008年の一人当たりの繊維消費が前年を上回った国さえある。

次に2点目は、繊維消費のうち、綿消費の減少幅が大きい点である。化繊消費は前年比5%減程度にとどまったが、綿消費は7%以上の落ち込みであった。尚、2009年の予備的分析結果は、世界の繊維消費が2008年の落ち込み以降大幅に回復したと示唆している。2009年の世界の化繊生産は、前年の落ち込みから一転、前年比3.6%増と大幅に回復する一方で、天然繊維が速度こそ緩まるものの減少傾向を維持した結果、世

界の繊維消費は微増にとどまると見られる。

2. 途上国で消費増加

先進国は過去数十年に渡って繊維消費増加の原動力として世界を牽引してきた。しかしながら、至近十年の一人当たりの繊維消費は途上国が先進国を大幅に上回るペースで成長している。

2007年の一人当たりの繊維消費は、2004年との比較で途上国が20%増だが、先進国では8%増であった。地域別では、極東の国々の成長率が約27%と最も高く、これは2004年から2007年の間に一人当たりの繊維消費が50%も増加した中国によるところが大きい。

途上国の繊維消費増加は化繊消費増に牽引された。2004年から2007年の間に一人当たりの繊維消費は繊維全体で20%増加したが、うち化繊は28%増加した。その結果、繊維消費全体に占める化繊消費は途上国で2000年には56%であったが、2008年には65%にまで増加した。途上国における一人当たりの化繊消費は2000年の2.8^{*□}から2008年には4.9^{*□}にまで増加した。

一方で、2008年の先進国における綿消費は世界全体の消費の約半数を占め、一人当たりの綿消費は9.5^{*□}でこの数字は途上国の消費量2.4^{*□}の4倍近い。

3. 綿のシェア縮小続く

綿及び化繊は世界の繊維市場のシェアの大半を占めるが、綿のマーケットシェアは急速に縮小している。世界の繊維消費に占める天然繊維の比率は、1990年が60%以上、2000年45%、2008年40%と減少の一途をたどっている。

中国やインドなど世界で最も人口の多い途上国が過去10年に急速かつ持続的な経済成長を経験した後、天然繊維、特に綿が再びマーケットシェアを取り戻す勢いである。ただし、中国やインドにおける天然繊維消費は全体では増加しているものの、一人当たりの綿消費はほとんど増加していない。例えば、1996年における中国の一人当たりの天然繊維消費は2.8^{*□}でその後12年で急速な経済成長を遂げた（GDP成長率9.5%）にもかかわらず、2008年には3.0^{*□}と基本的にほぼ横ばいだった。綿のみでは、2008年の一人当たりの綿消費は1996年から僅かに0.2^{*□}増の2.5^{*□}であった。2009年の予備的分析では、限られた土地資源や農作物との競合により天然繊維の価格は押し上げられ、比較的安価な化繊に代替する動きがテキスタイル業界に広まっている。

綿に似た風合いを持つ繊維の技術進歩が急速に進むなど、化繊産業で技術進歩が急速に進む中、天然繊維の需要が減少している。実際、途上国において、一人当たりの化繊消費は1996年の2.3千円から2008年には4.9千円と増加したにもかかわらず、同じく綿消費は1996年の2.2千円から2008年には2.4千円と微増であった。

2008年の一人当たりの綿消費は、先進国が引き続き牽引しているが、増加幅は2004年が9.2千円で2008年が9.5千円と微増にとどまっており、1996年から2004年の年平均成長率2%を大幅に下回っている。一方、先進国における一人当たりの化繊消費は2004年から2008年の間に12千円から11.8千円と微減となった。

世界全体では、2009年の世界の合繊消費は3,580万トンを同年の綿消費量2,330万トンを大幅に上回った。2004年から2009年の、一人当たりの合繊および綿の消費は、合繊が21%増に対し、綿消費は11%増であった。

(担当：業務調査グループ 杉原)